

# 青年海外協力隊（体育隊員）がモルディブの情操教育に及ぼした影響

健康スポーツマネジメントコース

5016A306-8 佐久間 健

研究指導教員：中村 好男 教授

## 1. 緒言

モルディブにおける青年海外協力隊（体育隊員）（以下「体育隊員」）が派遣されるまでには、現地の公立学校がモルディブ教育省に要請を出し、モルディブ教育省から JICA モルディブ事務所を通して日本にある青年海外協力隊事務局より日本国内の青年（20～39 歳）に募集をかけるというプロセスがある。そして、その過程で JICA はボランティア要望調査票を作成するが、その中の「要請理由・背景」には「近年教育省は生徒の心身の健全な成長を目的とした情操教育の必要性に注目しており、主要教科と同時に体育・音楽・図工などの教科を学校教育に導入し始めた。」と書かれている。また、モルディブの Health and Physical Education in the National Curriculum には「For the purposes of this curriculum, health includes physical, mental, emotional and social wellbeing.」という一文がある。つまり、WHO の健康の定義に「emotional」という言葉を付け加えていることから、モルディブ教育省は情操教育の必要性に注目していると言える。よって、モルディブ教育省から体育隊員に求められているニーズは子ども達の情操を豊かにすることであると考えられる。

しかし、ボランティア要望調査票の中の「予定されている活動内容」には情操に関する記載がない。そのため、モルディブに

派遣される体育隊員によって子ども達の情操を豊かにするような意図的な働きかけがなされているかは疑問である。そもそも、体育隊員が派遣された学校と派遣されなかった学校の子どもの情操の違いが見られるのであろうか。

本研究では体育における情操教育を「良好な人間関係を形成する教育」と定義し、体育における人間関係づくりに着目することで、体育隊員の活動がモルディブの情操教育に及ぼした影響を明らかにしていく。

## 2. 目的

- ①体育隊員はモルディブ教育省のニーズに適った活動を行えているかを検証する。
- ②体育隊員はモルディブの情操教育に貢献できているかを検証する。

## 3. 研究手法

- ①モルディブ共和国フォームラク環礁及びアッドゥ環礁の小学校 6 校における児童 363 名（有効回答率は 86%、315 名）を対象に質問紙調査を行った。学年は Grade4～7、年齢は 10～15 歳を対象とした。
- ②モルディブ共和国フォームラク環礁の小学校 2 校に派遣された隊員 5 名の報告書を対象に文献調査を行った。

#### 4. 結果及び考察

##### 【人間関係特性の結果について】

体育隊員の指導を受けている児童と指導を受けていない児童の『養護性・自己制御・仲間意識』の違いを検証した結果、体育隊員の指導を受けている児童は『養護性・自己制御・仲間意識』が低いという結果になった。報告書には良好な人間関係の形成に関する記載がなく、体育隊員は子ども達の『養護性・自己制御・仲間意識』を涵養するような働きかけをせずに体育の授業を展開しているため、それらに影響を及ぼしているとは言えないだろう。また、体育隊員が派遣される学校は「現状の学校現場において、主要教科以外の教科についての知識や指導経験がある教諭はほとんどいない。そのため地方の多くの学校では、十分な授業ができていないのが現状である。」という背景があることから、体育隊員が派遣された学校の児童は以前から『養護性・自己制御・仲間意識』が低く、情操のレベルが低かったと考えることは妥当であるように思える。よって、体育隊員は『養護性・自己制御・仲間意識』を涵養するような働きかけをせずに体育の授業を展開しているため、それらに影響を及ぼしていないと推察できる。

次に、体育隊員の指導を受けている児童と指導を受けていない児童の『自己主張・攻撃性』の違いを検証した結果、体育隊員の指導を受けている児童は『自己主張・攻撃性』がわずかに高い傾向があるが、それらに統計的な有意差は確認されなかった。一般的に『自己主張』は低ければよいというものではないが、『攻撃性』は低い方がよいと言える。したがって、体育隊員は活動

の中で意図的に『自己主張』をコントロールし、『攻撃性』を抑制するような活動をしていく必要があるだろう。

最後に、エリクソンの発達段階によって12歳以下の学童期と13歳以上の青年期に分けて分析した結果、発達段階によって人間関係特性の結果に違いが見られた。

##### 【報告書の内容について】

体育隊員は、子ども達が良好な人間関係を形成できるようになるための働きかけを行っているのかを検証した結果、報告書にはそのような記載が見られなかった。そのことから、体育隊員からの働きかけがないため、少なくとも体育隊員の活動を通してモルディブの子ども達が良好な人間関係を形成できるようになっているとは言えないだろう。したがって、体育隊員は教育省のニーズに適った活動を行うことができていないと考えられる。

#### 5. 結論

- ・体育隊員は教育省のニーズに適った活動を行っているとは言えなかった。
- ・体育隊員が派遣された学校の子供達は情操のレベルが高いとは言えなかった。
- ・体育隊員がモルディブの情操教育に貢献できているという証拠は得られなかった。

今後、モルディブの情操教育に貢献していくためには、発達段階を考慮したうえで各発達段階に適した指導をしていくことが必要になると考える。更に、現場で活動する体育隊員を通して現場のニーズを吸い上げ、モルディブ教育省と二者間協力のもとで国としての指針を明確に示していくことは、モルディブ社会の発展に寄与するものと考えられる。